

単元名：「ゆうやけ」

(全7時間扱い中 第3時)

(1) ねらい

きつねくんの行動や気持ちを自分の経験と結びつけながら、きつねくんがズボンに気づいてもらえたときの気持ちを想像することができる

(2) 授業のポイント

- ・物語の冒頭、中盤のきつね君の気持ちの変化を考えたり、想像したりしようとしている。【前時までの子どもの様子】
- ・終盤のきつね君の気持ちを考える場面で、本文に書いてあることに着目してズボンに気がついてもらえたきつね君の気持ちを想像することができるようにする。【授業者の手立て】

(3) 展開

過程	学習活動	○授業者の主発問◎児童の発問◇留意点★教材	時間
導入	<p>1 範読を聞き、お気に入りのズボンに気づいてもらえなかったきつね君の気持ちを考える</p> <p>2 ”ゆうやけ”に関する経験やそこからの気持ちについて考える</p> <p>3 きつね君はどんな気持ちなのか考え始める</p> <p>学習問題：きつね君は夕方に帰るときにどんな気持ちだったのだろう</p>	<p>○今までの物語りの流れを確認しながら、読む 「ズボンに気づいてもらいたかったのに少しも気づいてもらえない、そんな時のきつね君どんな気持ちかな」 ◎「泣きたくなるくらい悲しかったと思う」 「気づいてほしいのにな」 「気づいてくれないなんてひどいな」</p> <p>○「夕方まで遊んだこと、友だちとかと夕やけを見たことがあるかな」 ◎「俺、あるよ！だって家のすぐ前に公園があるから」 「夕やけなんてみたことないよ」 「夕方になるとお家に帰らないといけないから好きじゃないな」 ◇児童が夕やけについてのイメージをより具体的に持つことができるようICTを用いて写真を提示する ★夕やけの写真、ICT</p> <p>○「じゃあきつね君は、どんな気持ちなのかな」 ◎「きつねくんも夕やけ好きじゃないんじゃない」 「えー、きつね君はズボンに気づいてもらえたんだから良かったし、嬉しかったと思う。」 「にっこりしてるから、嬉しいに決まってるよ！」 「どこかに書いてあるかな」</p> <p style="background-color: #e0f0ff; padding: 5px;">【学習課題】本文に書いてあることから、きつね君の気持ちについて考えてみよう</p>	<p>8</p> <p>12</p>
展開	<p>4 きつね君の気持ちを行動や表情から読み取り、想像する</p>	<p>○もう一度、終末の部分を読み、本文のどこからきつね君の気持ちが想像できるか問う ◇児童が、本文からきつね君の気持ちを考えることができるように、本文に線を引いたり、イラストに丸をつけたり、読み取れそうなところに印をつけることを勧め、全体で共有する ◎「にっこりしましたってところに線引いたよ！」 「きつね君のズボンに気がついたところに線引いたよ。だってやっと気づいてもらえたんだから、このとき嬉しいに決まってるよ」</p>	20

		<p>「うさぎさんとくまさんが、くちぐちに声を上げたところだと思った。 僕も沢山いいねって言ってもらえたら嬉しくなるから。」</p> <p>◇児童が自分の考えに自信が持てたり、自分の意見を大切にできるように正解を決めない。</p> <p>○きつね君の気持ちがどんなものだったのかまとめる</p> <p>【評価(対象)】ズボンに気づいてもらえたきつね君の気持ちを想像することができる(発言、活動内の姿)</p>	
終末	5 振り返りを行う	<p>○振り返りを促す</p> <p>◎「ズボンに気づいてもらえてよかったなと思った」</p>	5